

フォロー
いいね
お願い
します！



📧 いまいだより。

檀原市議会議員

今井 りか

Rika Imai



- ・1986年4月11日生まれ
- ・O型 / 158cm
- ・土橋町在住
- ・真菅北小学校 PTA会長 (現在)
- ・議会広報委員会 委員長
- ・議会運営委員会 副委員長
- ・奈良市立平城西小学校
- ・奈良市立登美ヶ丘中学校
- ・奈良市立一条高校外国語科
- ・2021年2月 市議会議員選挙 初当選
- ・2025年2月 市議会議員選挙 2期目当選

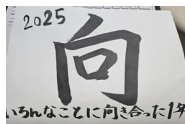
ごあいさつ

気づけば2025年も終わりを迎え、2026年となりました。新しい年が明けると、今年はどんな一年になるだろうと、自然とワクワクした気持ちになります。1年の目標を立てたり、新しい気持ちで一步を踏み出すような季節でもあります。一方で、物価高が続き、日々の買い物や家計への負担を実感している方も多いかと存じます。クリスマスやお正月、従来通りにしたいけど切り詰めなきゃ、何かを諦めなきゃなぁと頭を悩ませた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。さて、2025年の12月の定例会では、檀原市の将来に関わる大型事業について、多くの報告がありました。だからこそ、計画の進み具合だけでなく、暮らしへの影響を市民目線で丁寧に確認していくことが大切だと感じています。2026年に向けて、生活の声を大切にしながら、身近で安心できる市政を目指して取り組んでまいります。

2026

2025年の漢字、そして、今年の漢字

私にとって2025年を表す漢字は「向」でした。困難や課題から目を逸らさず、市民の皆さんの声にまっすぐ向き合う。そんな決意で過ごした1年でした。



そして、2026年のテーマは「対」です。これからは発信だけでなく、双方向の「対話」をより深めていきたいと考えています。対面での市政報告会はもちろん、民主主義を楽しく学べるボードゲーム「デモポリー」の体験会などを通じて、政治をより身近に感じられる場所を増やしていきたいと考えています。2026年も檀原市の未来のために活動してまいります。



予算特別委員会

みなさまの日々のご負担を軽減するため、国の交付金を活用した新たな支援予算を可決いたしました。

1. 子育て世帯へ「1人2万円」の応援給付金

物価高騰の影響を大きく受ける子育て世帯を対象に、**お子様1人につき2万円**を給付することが決定しました。

- ・いつ届くの？
⇒令和8年2月中旬の支給を目指して準備を進めています。
- ・対象者は？
⇒児童手当受給世帯に加え、令和7年10月から令和8年3月末までに生まれた新生児も対象に含まれる予定です。

2. 全市民向けの支援についても検討中

さらに、より広い市民の皆様への支援についても現在、市の方で検討が進められています。

(※広報紙作成時点での情報ですので、詳しくは市のHPや広報などでご確認ください。)



市庁舎建設事業等に関する特別委員会

新庁舎整備が事実上の白紙・先送りへ

12月の特別委員会で、新庁舎整備計画の「**事実上の凍結**」が市長より報告されました。

市は民間資金の活用を模索してきましたが、調査の結果、市負担なしでの整備に応じる業者は「**0社**」。これを受け、市長は大型事業の重なりを理由に、新庁舎整備を「**中長期的に考え直す(先送りする)**」と表明しました。

しかし、先送りは「現状維持」ではありません。現在、本庁舎北館の賃料や光熱費だけで年間約4,500万円、駐車場代に約1,150万円の税金が費やされています。窓口の分散による市民の不便も放置されたままです。

「先送り」による損失を止め、市民の安全と利便性を守る確かなビジョンを、引き続き強く求めてまいります。

市スポーツ施設の活用及び整備等に関する特別委員会

12月の特別委員会で、檀原運動公園の再整備について議論が行われました。

檀原運動公園に建設予定の新体育館は、老朽化した**現中央体育館(小房町)**の建て替えとなります。

一方で、国民スポーツ大会での利用に必要な規格とする考えが示されており、事業費は膨らむ傾向にあります。

大会終了後の主な利用者は市民であることを考えると、使いやすさや維持管理費、将来の財政負担を踏まえた「身の丈に合った規格」で十分ではないかという懸念があります。

財政が逼迫する中、予算の上限や優先順位を明確にし、慎重な判断が求められます。



テーマは、「周産期（しゅうさんき）ケア」と「子育ての情報発信」について

30秒で読める！今回のまとめ

○周産期ケアについて

「周産期うつ」は7人に1人が経験する身近な課題。檀原市でも早期発見に力を入れています。今後は「オンライン相談」や「お父さんへの支援」についても前向きに検討していくという回答を得ました。

※周産期うつとは

妊娠中から出産後1年以内に発症するうつ病の総称です。



○子育ての情報発信について

「市のサイトは小・中学生の情報が探しにくい」「ガイドブックの表紙が子育てと結びつかない」という声を届けました。市からは、2027年度版のガイドブックから学童期の情報を充実させ、表紙のデザインも見直していくという約束を引き出しました。



なぜ、この質問をしたのか（背景と問題意識）

1. 「周産期うつ」は誰にでも起こりうる

「周産期」とは、妊娠22週から産後7日未満までの心身ともに最も不安定な時期を指します。

中でも「周産期うつ」は、妊産婦さんの7人に1人が経験すると言われるほど身近なものです。

決して本人の努力不足ではなく、ホルモンバランスや生活の激変による「病気」です。

しかし、自分では気づきにくく、重症化するとご家族や赤ちゃんにも大きな影響が出てしまいます。

2. 子育て情報は「未就学児」で終わらない

市が発行する「子育てガイドブック」等は、現状では未就学児向けの内容が中心です。しかし、子どもが小学生、中学生になっても悩みは尽きません。制服の準備や部活動、放課後の過ごし方など、必要な情報が届きにくい現状を改善したいと考えました。

周産期ケア：重症化する前に「つながる」仕組みを

EPDS（産後うつ質問票）とは？

檀原市では檀原市では産後健診の際、EPDS（エジンバラ産後うつ質問票）という10項目のチェックシートを実施しています。市内の調査（令和7年4月～10月）では、産後2週間健診を受けた方のうち、約7.5人に1人（362人中48人）が高い点数を示しており、多くのお母さんが不安を抱えていることが数字でも明らかになりました。

これからの前向きな変化

- ・お父さんへの支援：父親も産後うつになるリスクがあるため、市は今年度から妊娠届出時に「父子健康手帳」を配布し、パパ自らがSOSを出せる環境づくりを始めています。
- ・オンライン相談の検討：「赤ちゃん連れでの受診はハードルが高い」という声に応え、自宅から臨床心理士などに相談できるオンライン相談体制の構築について、市長から「先行事例を研究し、実現に向けて検討したい」との答弁を引き出し、一歩前進しました。



子育て情報発信：もっと「使いやすく・親しみやすく」

小・中学生の情報も充実へ

現在の市の子育て応援サイトは、小学校・中学校の情報（制服の購入場所や費用、窓口相談など）にたどり着くのが難しい状況です。質問に対し、教育委員会からは「全校のホームページに必要物品や費用の情報を掲載し、迅速な提供に努める」、こども部長からは「2027年度版のガイドブックから、学童期の情報を追加する」との回答がありました。

ガイドブックの見た目も変わる！？

現在の子育てガイドブックの表紙は「ストリートファイター」のキャラクターですが、「子育てと結びつかない」という市民の皆さんの声も伝えてきました。これについて市は、「今後のイラスト改定を検討する」とし、檀原市のキャラ（さららちゃん・こだいちゃん）の活用や、地図ページの見直しなど、より実用的な内容へのアップデートを約束しました。



今井りか 後援会

今井りかの活動を支援くださる方を募集しています。次のようなことを手伝って頂ける方、ぜひご連絡ください。

- ・「いまいだより」を配って頂ける方
- ・過去の「いまいだより」を読んでみたい方
- ・宛名書き等のお手伝い など

Mail : rika.imai0411@gmail.com TEL : 080-8305-4364

今井りかのホームページと公式LINEができました！ぜひチェックしてみてください^^

HPは

こちら⇒



公式LINEは

こちら⇒



HP: <https://imai-rika.com/>

